

令和6年度 第2回 学校運営協議会(定時制部会) 議事録

校名	大阪府立大手前高等学校
准校長名	渋川 雅宏

開催日時	令和6年11月14日(木) 17:00~19:00
開催場所	大阪府立大手前高等学校 会議室
出席者(委員)	平野 智之、高木 学、寺村 美岐、上田 智子
出席者(学校)	渋川 雅宏、石野 靖
傍聴者	なし
協議資料	令和7年度 使用教科用図書の採択について 令和6年度 第1回授業アンケート集計結果
備考	なし

議題等(次第順)

- 1 令和6年度 教科書採択について
- 2 第1回授業アンケート集計結果
- 3 授業見学について
- 4 現在の本校の様子・取組み等
- 5 その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)

2 第1回授業アンケート集計結果について

(委員からの意見等について)

- ・家庭科の評価が3以下となっている。以前に授業見学した際、「旬の食材は栄養が○倍ある～」等、良い授業をされていた印象がある。なぜ、この教科だけこのような結果になったのか。例えば、教員の交代や生徒の健康生活の土台があって学びがあるという感覚がなくなったからか。
- 昨年と同じ担当者(非常勤講師)である。常勤の教員と比べれば、4月からの3か月間、週1回2時間の授業では、授業回数が少なく生徒理解という面で、つかみにくいところがあり、生徒のニーズに合っていなかったのかもしれない。また、生徒から評価される回数も少ないこともあり、そのような結果になったと思われる。
- ・発達障がいのある子どもたちが多い場合、健康や生活に興味がない生徒が増加しているという仮説があり、大事な土台であるというところからが入ったほうが良いという感想をもった。
- ・事務局の説明にもあったように、生徒の特性、個性、生活状況から支援しながら学校

づくりをしているということからすると、非常勤の先生は関わりがあまりないので、個人的な印象として、もっと生徒たちの生活につなげるようなことができるのではないかと思う。

- グラフに波がある。その傾向については、近年、多国籍生徒の在籍数の増加が考えられる。調理実習を例にとると、なじめない料理があったり、調理の手順はわかっているけれども、どれだけ理解できているか、興味があるかという点も作用してくる。国によっては、料理に肉が使われない場合もあり、毛嫌いして参加しないこともあるかもしれない。これらも要因の一つと考えられる。
- 多様な生徒の土台づくりからやっていて、個別に様々な理由があるというときに、このように一つに集約された数値から分析するのは難しい、量的な分析でみえてくるものというのは、多様であればあるほど、例えば100、200のサンプルがあって総体としてみる必要がある。今回の場合は、数値を平均値だけで見ているが、個別でみていかなければならないと思う。
- 報告のあった生徒の取組（質問項目1・2）、生徒の評価（質問項目3～7）、生徒の意識（質問項目8・9）について、100%換算で、それぞれが約88%という高い値（高い肯定率）がでている。また、教科の分析で生徒評価（質問項目3～7）では、「何ができるか」等の新しい指導要領の学びの中身の転換などを一所懸命やっていると、座学・実技でいえば質問項目6（発表の活動を取り入れる、あるいは、主体的に活動している）などのように、こういう形に変えていこうとしている。新しい教科書が4年次生までそろった中で、教え方を変えて行こう、評価も変えて行こういとされている。いくつ覚えたら何点というよりは、自分たちが発表したり交流したりすることが、社会に出て人と人との関係を築いていく学ぶ力だといわれている。
- 質問項目6で、座学は「発表する活動」、実技に「主体的に活動」となっており、「発表」という文言がない。質問項目の文言は、文部科学省が決めていたり、あるいは何かルールがあるのか、芸術関係のほうみんなの前で発表などができるように思う。
→座学は座って話を聞く中で、自分たちが活動する場面をどれだけ作っているか、一方、実技のほうは主体的な活動として、生徒たちが身体表現でどれだけみんなの前で見せるか、その主体的な活動を「発表」と読み替えてもよいのではないかと思う。
- 人数の多い学校と一概には同じ条件で比較はできないが、それでも、88%は高い数値であると思う。生徒と教員との関係性がなければこのような高い数値は出ないと思う。
- 多少は、年度や教科によって数値が変動はあるかもしれないが、学びを変えて先生が支援しながら個別でしっかり学びを作っていくことをずっとしているという報告があったので、その点を確認し、見ていけば良いと思う。授業見学でわかれば良いかと思う。

3 授業見学について

(1) 委員からの意見等

- ・授業見学の事前に、授業担当者・支援者の情報を教えてほしい。

→授業担当者・支援者を口頭で紹介させていただいた。

- ・授業見学時にメモ書きしたこと、気づいたことなどを述べたい。

自分の時は、1クラス60人、10クラス以上あった。その感覚で話をするので、ギャップがあるかもしれないがご容赦願いたい。

授業のはじまる前の生徒と先生との会話に、不登校を防げるようなヒントを見いだせたように感じた。

昔の授業では、黒板に画像を投影して、効率的にチョークで書き入れていくことがなかった。

報道では、ICT 機器を活用した授業を行っている学校では、かえって残業が増えるという社会的な問題を取り上げていたように思うが、今回の授業では、報道の部分は感じず、報道とのギャップを感じた。

取りこぼしのない授業の進め方を感じた。教室の後ろのほうに年配風の方が3名おり、授業が始まると、座っている生徒を見て回り、授業についていけているのかを確認しているような様子があった。

その人たちは学校の担当者なのか生徒なのか。あるいは、生徒同士で、理解できている生徒が見て回って教えているのか、先生の補助をするためなのか。授業が遅れないようにサポートしている人なのか。

→本校では、府の事業をフルに活用しており、教室の中には、TT（サポート）の教員に加え、日本語や学習面のサポートのための「学習支援スタッフ」、「学習支援員」も加わり支援している。

- ・授業に遅れないように活用しているなら、そのようなやり方は良いと思った。学習意欲も高まり、学力の向上にもつながる。勉強にもついていけると感じた。

- ・夜間定時制の授業は少人数で、かつ丁寧な指導という印象をもった。

- ・老若男女問わず学んでいたが、そこには勉強しやすい雰囲気があった。

- ・遅れてきた生徒を咎めることや、遅れたことに対して、けんかになるような会話もなく、すごくいい雰囲気の中で授業を進めているという印象を受けた。

- ・全体的にすごくいい雰囲気を感じた。

- ・日本語の学びが必要な人や学びなおしの人にとっては、「すごく通いやすい教室」との印象を受けた。

- ・授業の内容は、中学校の学んだことが中心であったが、全員がわかるよう配慮されていたと感じる。中学校までに学んだことをしっかり理解し社会に出ることがとても大切である。その意味で、いい授業をしていると感じた。

- ・社会の授業で石油がとれる国の周りが潤っていることを知り、世の中の変化を知る

ことができよかつたと思う。

- ・言葉で聞くだけでなく、皆で同じ画像見て、プロジェクター等を使った授業での視覚的な印象も大事だと感じた。また、ユーモアも交えて、和気あいあいと授業が進められており、うまく授業を進めているという印象を持った。
- ・授業では、とてもいい印象を受けた。教員の姿勢、声かけが大事だなと思った。たとえば、日本語を母語としない生徒に対しては、ゆっくり届くように話す（発音している）様子があり、また、生徒の反応を確かめながらやり取りをしたり、ユーモアを交えたりちょっとした答えをほめたりして、そこから関係性を築くことで、生徒の学びができているように感じた。

- ・これらの意見から学校として何か感じたことはあるか。

→委員から勤務時間の話題に触れていただいたが、本校では、府の考え（時間外での勤務を短くしていこうという取組み）は達成していると思う。

定時制の課程では、生徒の在校時間は短い。7時間45分の勤務時間の中で、授業は4時間弱である。勤務時間の中で教材研究をしたり、会議にあてたりする時間を十分確保することができる。したがって、学校で遅くまで残って行うということはない。全日制の課程と比べて、活用できる時間があるので、そんなに負担になっていないと思っている。

- ・外国籍生徒の男女比率は。

→男性の生徒も在籍しているが、1限目には登校できていなかったため、女生徒が多いように感じたかもしれない。全体的には女性が若干多い。

4 現在の本校の様子・取組み等

(1) 委員からの意見等

- ・保護者としてスポーツ大会や文化祭を見学した。スポーツ大会では、皆の体の調子を合わせて、一所懸命一つになって取り組んでおり、すごくいい印象を受けた。文化祭の舞台発表で、創意工夫した取り組みがありとても感心した。また、一人でエレキギターを演奏している生徒はとても上手く、若大将を彷彿とさせるものであった。昔を思い出しうれしくなった。また、ソロで歌っている女生徒にも驚いた。とても上手で、将来、歌手になれるのではないかと思ったほどである。
- ・生徒異動（退学）の説明があったが、今日の教室での生徒の様子・雰囲気であれば退学はもったいない感じがした。いろいろな事情（家庭の事情や経済的な面など）があるのだろうが、学校に来て生徒間でコミュニケーションとることで頑張る力も出てくるのではないだろうか。
- ・評価（点数）に現れない力・見えない個々の才能を伸ばしてあげたい。そのようなと

ころも教育方針であればいいなあと今日の授業を見学して強く思った。

- ・一人のために巻き戻す指導があった。生徒への接し方や声かけ、または、言葉には出ていなくても、生徒への思いやりを十分感じ取ることができた。
- ・遅刻生徒の対応・言葉かけ、生徒間のコミュニケーションなど、醸し出す室全体の雰囲気から、点数に現れない良い面、不登校にならない側面も併せもっていると感じることができた。

次回の会議日程

日時	令和7年2月20日(木) 15:00~16:00(予定)
会場	大阪府立大手前高等学校 1階会議室